

論文内容の要旨

申請者氏名 田中 宏昌

企業や大学をはじめとした様々な組織において、組織またはチームが高いパフォーマンスを発揮することは、大きな成果を出すために必要不可欠である。そのため、チームパフォーマンスに関する多くの研究が蓄積されており、個人というマイクロレベルに焦点を当てた研究から、組織間の関係性というマクロレベルに焦点を当てたものまで存在する。多くの研究が蓄積されている一方で、実際の企業組織で研究成果を活用するためには、これらの研究のみでは十分に実践的ではない。たとえば、対面でのコミュニケーションとチームパフォーマンスの関係について論じた研究は多いが、COVID-19のパンデミック以降、リモートワークを実施する企業が増えたため、対面でのコミュニケーションを十分に実施できない組織もある。本研究では、組織行動論をはじめとした諸分野のこれまでの研究成果を、企業で実践的に活用するためのアプローチを3つ提案する。一つ目の研究は、個人レベルに焦点を当て、Work Engagement (WE) と呼ばれる個人のパフォーマンスに影響を及ぼす概念を取り扱う。WEが高いほど、個人のパフォーマンスやWell-Beingが向上することが知られており、個人のWEを高いレベルで管理しておくことがチームにとって重要である。二つ目の研究は、チームレベルに焦点を当てた研究であり、Shared Mental Model (SMM) と呼ばれるチームの共通認知を表現する概念を扱う。SMMが高いほど、チームのパフォーマンスが向上することが知られており、SMMを高いレベルで維持することが、チームのパフォーマンスを発揮するために重要である。三つ目の研究は、個人レベルとチームレベルの双方に焦点を当てた研究であり、コミュニケーションエンハンサーと呼ばれるチームコミュニケーションを活性化する人物を発見することを目的とする。チームのコミュニケーションが多いほど効率性が高くなることが知られており、コミュニケーションエンハンサーを特定してチームに参加させることで、より効率的なチームを作ることが可能となる。これらのアプローチによって、企業組織においてより実践的にエビデンスに基づいた良いチームマネジメントの実現が期待できる。

論文審査結果の要旨

申請者氏名 田中 宏昌

令和7年2月10日、審査委員一同は本論文申請者に対し、論文の内容および関連事項についての審査試験を実施した。審査においては、論文の学術的価値、研究の独自性、方法論の妥当性、ならびに論理構成の明確性について詳細に検討を行った。試験の結果、申請者は審査過程において指摘された問題点について十分な理解を示し、適切かつ的確に回答を行った。また、論文本体に対して求められた修正・加筆も、適切に実施されていた。以上の審査結果を総合的に判断し、当該論文は博士論文としての要件を満たすものであると認める。